

国際交流 もりおか

Morioka International Relations Association



【発行】公益財団法人盛岡国際交流協会 〒020-8530 岩手県盛岡市内丸12番2号 盛岡市役所別館7階
 【TEL】019-626-7524 【FAX】019-622-6211 【URL】http://www.mira-morioka.com/ 【E-mail】info@mira-morioka.com

令和4年11月14日、おでってホールにて、協会設立30周年を祝し、記念式典を実施しました。多数の賛助会員や関係者の皆様に御参加いただき、大変盛会となりました。

式典では、谷藤裕明盛岡市長、堀江淳岩手県国際交流協会理事長より御祝辞をいただいたほか、姉妹都市カナダ・ビクトリア市のマリアンヌ・アルト市長、友好都市台湾・花蓮市の魏嘉賢市長からお祝いの動画メッセージをいただきました。

功労者表彰として、これまで協会に長きにわたりご尽力いただいたお三方を表彰させていただきました。

記念講演では、新渡戸基金の藤井茂理事長から、「新渡戸稲造にみる国際交流」と題して約90分の講演をいただき、協会の歴史だけではなく、先人が築いてきた国際交流の土台のありがたみを感じることができました。



功労者表彰

本協会の目的である「世界に開かれた魅力あるまち・盛岡」の創造のため、協会役員として長く国際交流の推進に貢献された3名を表彰しました。

三浦 宏様（元盛岡国際交流協会 理事長）
 畑中 美耶子様（元盛岡国際交流協会 評議員）
 竹田 孝男様（元盛岡国際交流協会 評議員）
 （竹田様は所用により御欠席。）

盛岡国際交流協会 設立30周年



令和5年1月21日には、30周年を記念した外国籍市民との交流イベント『外国籍市民と一緒に学んで・聞いて・遊ぼう!』を開催し、日本、ネパール、ベトナム、タイ、カナダなど様々な国の出身者が集い交流しました。第1部では、盛岡の魅力や定住促進の取り組みを紹介し、第2部では、京都精華大学前学長のウスビ・サコ教授のオンライン講演会、第3部では、日本の紙相撲や、ベトナムのオーアंकアン、韓国のコンギなど各国のゲームを紹介しました。参加者はゲームを通して、異文化のゲームに触れ、言語が通じなくても助け合いながら、活発に交流をしていました。





10月上旬に実施した英語合宿で、自己紹介やスピーチ練習をした6人のビクトリア市研修団員が集まり、ビクトリア市のアルト市長をはじめとする市役所の皆さんと、ビクトリア盛岡友好協会のビル会長らとオンライン交流を行いました。団員が披露した英語スピーチは素晴らしく、新たな視点で盛岡を伝えることが出来ました。



外国籍市民の皆さんに大人気の“日本文化体験講座”では、海外でも人気の高い“空手”を体験しました。準備運動もしっかりした後で、突き、蹴りなどの型を学んで、講師の先生が持つミットを蹴ったりしてエネルギーに楽しみました。

EVENT REPORT

今年度下半期に開催した盛岡国際交流協会のイベントをご紹介します。



今年度5回目となるキッズ・レッツ・プレイでは、きたくり保育園にお邪魔しました。ベトナム出身のグエンさんと一緒に「シンチャオ！」(ベトナム語でこ

んにちはの意)を元気に練習したり、食文化や伝統行事などについて学びました。女の子たちは、鮮やかなピンク色の“アオザイ”というベトナム伝統衣装に大興奮！列を作って試着を待っていました。



台湾花蓮市を訪問しました

2023年2月10日から13日までの4日間、盛岡市訪問団が友好都市である台湾花蓮市を訪問しました。

花蓮市滞在は約1日半と短い時間でしたが、花蓮県、花蓮市との意見交換や交流会を通じて、双方が今後の交流促進に一層力を注ぐ決意を新たにしました。

また今回、3年前に建立された友好都市提携記念碑にも案内していただき、とうとう実際に記念碑を目にすることができた時は、一同感激の面持ちでした。



友好記念碑「両相好」

今年度最後のキッズ・レッツ・プレイは、みたけ学童保育くらぶで、モンゴルの紹介をしました。羊のくるぶしの骨をサイコロの



ように使って遊ぶ「シャガイ」では、最初は骨を触ることに抵抗があった子達もいましたが、すぐに楽しさがわかって、何度も遊んでいました。

花蓮市は台湾東部の海岸沿いに位置し、海と山に囲まれた自然豊かなまちです。

先日、花蓮市を含めた花蓮県全体が、世界最大級の旅行予約サイト

booking.comが発表した「世界で最も居心地の良い都市」ランキングにおいて、第二位に選出されるという荣誉にも輝いています。

風光明媚で人も温かく、原住民族伝統文化も大切にしている—そんな魅力的な花蓮市に皆さんも是非足を運んでみてください。



花蓮駅到着時の出迎えの様子



ボランティア活動レポート

独立行政法人国際協力機構(Japan International Cooperation Agency, 略称JICA)は、開発途上国の発展に貢献するため、ボランティアの派遣や受け入れを行っています。盛岡出身で世界各国で活躍するボランティアの皆さんの活動をご紹介します。

青年海外協力隊員

佐藤 麻美さん (盛岡市出身)



ベトナム社会主義共和国
フエ省

岩手県の良さを知ってもらうため、
景色や祭り、食文化を授業中に紹介する佐藤麻美さん

ベトナムのフエ省で日本語教育の分野で活動しており、現地の短期大学の日本語学科で、大学生と高校生に対して日本語や日本文化を教えています。

フエはベトナムにおける日本の京都と呼ばれている地域で、昔は王様が住んでいた町でもあり、王宮や古い町並みが残っています。また、日本語教育が盛んであり、カフェやレストランに行くと現地の方が日本語で話しかけてくれるということも、珍しくありません。そして、みなさんパーティーが大好きで、たくさんビールを飲みます。ベトナムでは一人で飲む文化はなく、誰かがグラスを持つとみんなで乾杯をして、一気に飲み干します。そのため「いっき」という日本語だけはベトナム人はすぐ覚えるようで、たくさんのベトナム人が知っています(笑)。

私の教える学生達は、東京や大阪を知っていても、岩手県のことには誰一人知りませんでした。少しでもベトナム人に岩手県の良さを知ってもらいたく、授業のなかで、綺麗な自然が溢れる観光地、新鮮な海産物を中心とした食文化、さんさ踊りを紹介しました。

先日、私の実家の周りに高く積もった雪の写真を見せたところ、ベトナム人はほとんど雪を見たことがないため、非常に驚いていました。

課外活動で文化祭を開催しましたが、日本語学科では日本料理体験、書道体験、浴衣の試着体験などをし、盛り上がりました。また、各学科でダンスを披露するのですが、日本語学科ではよさこい踊りを披露しました。本当はさんさ踊りをしてもらいたかったのですが、太鼓の調達が難しく断念しました。道具や材料が揃えば、今後さんさ踊りやわんこそばも学生のみんなに体験してもらいたいと思っています。

気付けば、ベトナムに住んでもう1年以上が経ちました。文化の違いに戸惑うこともたくさんありましたが、それも含め楽しいと思えるようになりました。

そのような活動を通して、より多くの人が日本に興味を持つようになり、また日本語教師として、少しでも日本語学習者の助けになればいいなという思いで日々活動しています。



文化祭でよさこい踊りを披露する日本語学科のみなさん



通訳ボランティアさんに聞きました IFSCクライミングワールドカップB&Lコンバインドいわて盛岡2022

令和4年10月20日（木）～22日（土）に、岩手県営運動公園スポーツクライミング競技場にてIFSCクライミングワールドカップが開催されました。大会中は、海外から来た選手やプレスの方々をサポートする為、通訳ボランティアの皆さんが大活躍!!今回は、通訳ボランティアとして大会に参加した、久保田拳司さんにお話を伺いました。

会場の雰囲気はいかがでしたか？

盛岡でのワールドカップという貴重な空間に身をおくことができ、まずは大会関係者の皆様に感謝いたします。会場の雰囲気としましては、想像よりも静かな印象でした。盛り上がらないという意味ではなく、マスク着用や拍手を中心とした応援など、大会関係者及び観客全員がコロナを配慮したマナーに協力的であることに感銘を受けたものです。

お手伝いの内容はどのようなものでしたか？

外国からのお客様に対し、英語通訳により入場の受付をスムーズに進めることに努めました。例えば、「May I see the inside of your bag?」と聞いたりなどして、受付で手荷物チェックを行う際のお手伝いをしました。また、インドネシアテレビ局の関係者が受付場所がわからずにいる様子でしたので、「Are you working here? If so, please proceed that way.」と伝え、大会関係者用の受付通路を案内しました。



通訳ボランティア 久保田拳司さん

大変だったことはどんなところですか？

雨と寒さです。特に寒さ対策は重要だと感じました。

印象に残ったことは何ですか？

タクシーでホテルまで帰りたいので、タクシー会社との間で通訳をお願いしたいという需要が数件ありました。その中で、大会二日目にインドネシアのテレビ局の方々の対応をさせていただき、とても感謝されたことが印象に残っています。翌日には向こうから私に声をかけてくださり、LINE交換をお願いされました。いつになるかわかりませんが、もしインドネシアに行く機会があったときはLINEに連絡を入れてみようと思います。

あなたもボランティア登録しませんか？
詳しくはこちらのQRコードからどうぞ →



5年前、中学生ビクトリア市研修に参加したみんなが晴れの日を迎えました

20歳を迎えた団員からメッセージ

盛岡国際交流協会30周年おめでとうございます。ビクトリア市研修での経験は、私の人生の中で大きなターニングポイントの1つです。当時中学生だった私は学校と家の2つの世界だけしか知りませんでしたが、ビクトリア市研修に参加したことで想像していた以上に世界は実際に広がっていること、自分は思っていた以上に当たり前前に生活していた故郷や自分自身について何も知らないことを身をもって知りました。今は、盛岡を離れ一人暮らしをしています。地元を離れて一人で勉強する為に行動できたのは、ビクトリア市研修での経験と仲間との出会いのお陰です。新しい世界に自分から飛び込んでみることで、実際に経験することは、内容や結果に関わらず貴重な財産になり自分を形作ってくれます。これからビクトリア市研修を経験する皆さんにも、素敵な出会いと経験がありますように。

平成29年度第24回中学生ビクトリア市研修団員
中村 佳矢



令和5年度 賛助会員募集！！

会員になると各種イベントへの先行申込や割引料金も！
10月・3月発行の『国際交流もりおか』（本誌）も郵送します♪

個人： 1,000円～
団体： 10,000円～
※4月更新

